
ずっとそばにいるから

りん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ずっとそばにいるから

【著者名】

Z7320Y

【作者名】

りん

【あらすじ】

名探偵コナンの原作逆バージョンです。

蘭ちゃんがアポトキシン4869を飲まされてしまいます。
投稿が遅れてしまうことがあるかもしれません、どうぞよろしく
お願いします！（林檎の葉さん、パクッちゃって下さいません・・・
）

FILE、1 約束

（工藤邸）

「ネーネー、新一～」

「ん～？」

ここの中、高校生探偵工藤新一は書斎でシャーロック・ホームズの小説を読んでいた。

「私、空手の都大会で優勝したから、トロピカルランドへ連れてつて～」

「ん～」

「ねえ、聞いているの？」

「ん～」

「新一つてばー！」

「ん～」

今新一と話しているのは、現在、帝丹高校空手部女主将を務めている毛利蘭だ。

蘭はさつきから新一に、トロピカルランドへ連れてつてもらおうとがんばっているのだが、新一は聞こえていないみたいだ。

蘭は怒つて、

「新一なんか、もう知らない！！」

と言つて出てこいつとしたら、新一が止めた。

「蘭、ごめん。確かトロピカルランドの話だったよな！」

「ただけど、今は推理小説を読まないって約束したら許してあげてもいいけど。」

「読まねーから出でいくなよ。」

「わかったわよ。」

「うつてあつたけなく、一いつのケンカが終わつたのである。

「じゃあ、明日は学校休みだから、明日こじーぜ!」

「分つた。じやあ明日の十時にトロピカルランド前でね。」

蘭は、別れ際にいづりつた。

「もちろん、新一のおじつて事も忘れないでね?」

「まじ・・・」

この後、新一が銀行へお金をひき出したのはまつまでもない。

FILE、1 約束（後書き）

初めての連載小説に挑みます。
頑張りますので、どうぞよろしくお願いします！！

FILE、2 トロピカルランド

～トロピカルランド～

「ね～新一、どこ行く??」
「蘭が行きたいとこでいいよ」
「ちゃんと考えてよー!」

新一はトロピカルランドの地図を見て、しばらく考えていたが「ここ、いいんじゃねーか」と言つて地図を指差した。

「ミステリーコースター、面白そうじゃん!!」
「え～なんか怖そう・・・」
「大丈夫だろ。ほら、行こうぜー!」

～ミステリーコースター殺人事件から1時間後～

「お~おい、もう泣くなよ・・・」
「あんたは、よく平氣でいられるわね・・・」

「オ、オレは現場で見慣れているからバラバラ死体とか・・・
「サイテー！！」

蘭はエーンと言つてまた泣いてしまった。

新一はおろおろしていたが、

「エリで待つていてくれ、すぐ戻るからよーー。」

と黙つてビルかへ行ってしまった。

蘭はしづめらへ泣いていたが、落ち着いたのか泣きやんだ。

すると、さつきの//ステリー・コースターに乗つっていたサングラスの黒服男がトイレの隣りの細い道に入つていくのが見えた。

「何しに行くんだろ？！」

そう思つた蘭は後を追つことにした。

「ほりょーおまえの会社の拳銃密輸の証拠のファイルムだ・・・」

(え・・・)

「悪い事はするもんじゃねーザーーー。」

(うわ・・・新一に知らせなくちや・・・)

そこまで思つた時、誰かに殴られた。

「こんな小娘に見られやがつて・・・」

意識がもつれつする中、

「あの時一緒にいたもつ一人の人だ・・・」

と思つた。

「こいつ、殺しやすい！？」

「いや、拳銃はまずい！！ カッきの騒ぎで、サツが、まだつるつ
いている！！」

そう言つて、あるケースを取り出した。

「こいつを使おう・・・ 組織が新開発したこの毒薬をな・・・」

蘭に薬を飲ませながら言つた。

「フフフ・・・なにしろ死体から毒が検出されない・・・ 完全犯
罪が可能なシロモノだ！！

まだ人間には試したことがない、試作品らしいがな・・・

「アニキ、早く！！」

「オウ・・・」

2人が去つて行つたころ蘭の体に異変が起つた。

(か、体が・・・熱い！！！骨が溶けてるみたい・・・もうダメ・・・)

FINE、2 トロピカルランド（後書き）

ミステリー「コースター（ジェットコースター）殺人事件、飛ばしち
やつてすいません・・・
すごく長くなる気がしたんで・・・
これからもがんばります！――！

FILE、3 蘭・・・?

「蘭！？」

新一が戻つてくると、蘭がいなかつた。

「（）で待つてゐつて言つたのに・・・ビック行つたんだ？」

新一はひとまず蘭の携帯に電話してみた。

P R R R · ·

「へやつ。出ねー」

しばらく待つっていたが、帰つてくる気配が無いので蘭を探しに行くことにした。

「ん？」

すぐ近くの細い道を通った所に、誰かが倒れていた。

「蘭！？」

倒れていたのは・・・

今日、蘭が着ていた服を着て
しかも顔がそつくりな女の子だった。

しかし、新一と同じ高校生の姿ではなく、小学1・2年生くらいの
子供だった。

「蘭？」

「・・・・う」

「大丈夫か？？」

「し・・んいち・・？」

「蘭なのか？ ケガしているじゃないか・・・とにかく家に運ぶからな。」

蘭は新一と家に向かつた。

FILE、3 蘭・・・？（後書き）

蘭ちゃんが小さくなってしまった・・・。

これから、どうなる！？

工藤邸

לען עלי

一蘭！？

「新刊」

「俺の家だ。蘭、気付いていないのか？体の事……」

「体？私は別に・・・つてええええええええ――――――――――

が、が、体が縮んでるや！？

蘭はものすごく驚いていた。

それもそ二だア三
起きたる自分の体が縮んでいたのだから

「蘭、いつたい何があつたんだ？」

「えつと、たしかあの時いた黒ずくめの服の2人組に変な薬を飲まされたの！」

「変な薬?」

「うん。たしか「死体から毒が検出されない、まだ人間には試したことがない、試作品らしいがな」つて言つてた。」

「その毒薬の作用で縮んだのか・・・
俺は阿笠博士に相談してみる。蘭、それまで使ひ偽名を考えとけ。」

「あら、蘭ちゃんがいいんだつたら新ちゃんの妹にすれば?..」

「母ちゃん!..」

「新一のお母さん!..」

そこには新一の母、有希子が立っていた。

「こいつに来たんだよ・・・」

「ついたきよ。悪いけど話は全部聞かせてもらつたわ。
ロス生まれの新ちゃんの妹つてことにすればいいじゃない」

「蘭、それでもいいか?..」

「うん。」

「そーゆ一事だから、バーアイ」

「ちょっと待て。もう帰るのか?..」

「ええ。予定がパンパンだから。じゃーねーー!..」

2人はしばりベビックリして声が出なかつた。

FILE、4 目覚めたら・・・（後書き）

なぜ有希子が突然現れたんでしょうね・・・

FILE、5 偽名（前書き）

新一＆蘭は平次、和葉、快斗、青子と最初から友達になつていま
す。

FILE、5 偽名

「蘭、考えたか？偽名。」

「うーん。花の名前がいいかなって思ってるんだけど・・・」

「花の名前か・・・」

新一は紙を持ってきて、花の名前をどんどん書いていった。

「蘭、向日葵、紫陽花、桜・・・」

「あー桜がいいな。」

蘭のこれからのお名前は、「藤桜」になった。

「じゃあ、ら・・いや桜。お前の正体を知らせておきたい人つてい
るか？」

「えっと、お父さんにお母さん、博士と・・・あと服部君と和葉ち
ゃん、黒羽君と青子ちゃん・・・それと・・・園子かな。」

「結構いるな。おじさんとおばさん、博士には明日話に行くとして。
・・・あの大阪2人組はどうするっ？」

「落着いたら連絡を取るかな・・・」

「じゃあ、園子とあの2人はまだ起きていなかつたか。」

「うさ。」

「まひ遅ー、ひ・ひ・こや桜もひ寝るか。」

「私もお兄ちゃんは早くね。ね。」

新一は自分のベット、桜はあこでいたベットに寝た。

いつも、早よつな遅いよつな1日が終わったのである。

FILE、5 猿古(後書き)

桜ちゃん、これからがいひななのじょい。

「ん・・・?」

新一が朝起きると、どこかで「匂い」がありました。

近所へ行ってみると・・・

「あ、ねせよひ。新・・じやなくしてお兄ちゃん」

「う・・こや桜、もつぱきていたのか?」

「うそ。田代がわのちやつて・・・」

桜は朝、「ま」との準備をしていました。

「あ、わづひ。あの部屋、自由に使つていいんだ。」

「ホントー?」

「それと今日、服買いに行くか?」

桜は新一の昔の服を着ていた。

新一と桜は朝「はん」を食べ終えると、部屋の掃除を始めた。

「結構埃だらけだ・・・」

「まあ、始めよ。」

「ふう・・・。せつと付いたか・・・」

「結構、時間掛かつちゃったね・・・」

掃除に時間を取りられたため、服を買ひに行くのは午後になってしまつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7320y/>

ずっとそばにいるから

2011年11月27日16時45分発行